

授業科目名 (英文名)	免疫組織形態学特論 (Immunohistochemical Morphology)				
担当教員 (所属)	吉田 淑子(医学部)				
授業科目区分	生命・臨床医学専攻		授業種別	講義科目	
開講学期曜限	前期・火曜 7 限		対象所属	医学薬学教育部 (博士課程) 生命・臨床医学専攻	
時間割コード	355606		対象学年	1, 2, 3, 4年	単位数 2単位
連絡先 (研究室、電話番号、電子メール等)	准教授 吉田淑子 yosidato@med.u-toyama.ac.jp				
オフィスアワー (自由質問時間)	随時、ただし事前に予約する。				
リアルタイム・アドバイス：更新日 12/03/30					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け (一般学習目標)			教育目標		
本講義では、免疫反応を支持する免疫応答の場を十分に理解することを目的とし、リンパ性器官 (リンパ節、扁桃、胸腺、脾臓、パイエル板など) の形態的、機能的特性および細胞相互作用について学習する。特に、抗原提示細胞については、これまでの研究の流れをふまえ、最近の知見をについて学習する。また、形態的特性を研究するための、試料作成の原理や手技 (免疫組織化学法、電子顕微鏡試料作成法、免疫電顕法など) についても言及する。本講義および実習は学部学生における組織学を基礎としたアドバンスコースとする。					
達成目標					
本授業では、免疫応答の場を組織、形態学的に理解する。また、細胞特性や微細形態を観察するための手法として免疫組織化学法や電子顕微鏡、免疫電顕法についてその手技を学習する。					
1.リンパ性器官がどこに存在するか説明できる。 2.リンパ性器官の構造および主要な微細構造を説明できる。 3.リンパ性器官を構成する細胞の種類を列挙し、その機能を概説できる。 4.リンパ性器官を構成する細胞の相互関係を概説することができる。 5.抗原提示細胞 (樹状細胞) について、種類、機能、形態について概説できる。 6.実験方法として免疫組織化学の原理を理解できる。 7.実験方法として電子顕微鏡、免疫電顕の試料作成の原理が理解できる。					
授業計画 (授業の形式、スケジュール等)					
1.この講義および実習は、学部学生の組織学、組織学実習で学習した内容の延長として行われる。 2.講義の一部は、関連学会への参加、教室でのカンファレンスへの参加により補われる。 3.実習の一部は、研究室内での研究で補われる。					
キーワード	リンパ性器官、リンパ節、扁桃、パイエル板、脾臓、胸腺、骨髄、抗原提示細胞、樹状細胞、形態的特徴、微細構造、組織学的構築、機能的特徴、免疫応答、細胞相互作用、場の形成				
履修上の注意	授業の詳細については、履修者に後日連絡する。 なお、実習については集中して実施する場合がある。				
教科書・参考書等	教科書：なし 参考書：標準組織学総論・各論 (藤田尚男・藤田恒夫著、医学書院) カラーアトラス顕微鏡写真で見る細胞組織学 (Wolfgang Kuehnel著、medical science international), Diagnostic Histopathology of the lymph node (JA Strauchen ed, Oxford) Antigen Presenting Cells(LB Schook and JG Tew ed., Alan R Liss Inc.)				
成績評価の方法	参加状況、カンファレンスでの質疑応答などから総合的に判断する。				
関連科目	組織学、組織学実習、再生医学実習、人体形態学				
リンク先URL	http://www.med.u-toyama.ac.jp/saiseiigaku/index.html				
オープン・クラス	受入不可：		単位互換	受入不可：	
備考					